

資料8
第3次安芸高田市
まち・ひと・しごと創生総合戦略（方針）

【総合戦略の目的】

・安芸高田市における人口減少対策、地方創生の方針を示します。

【次期総合戦略の基本骨格の設計方法】

・現行総合戦略の基本目標や人口ビジョンで得られた結果を踏まえて、人口減少対策に向けた政策の対象を設定し、施策・事業を検討します。

【人口ビジョン等の検討で得られた知見】

- ・目標人口の達成には毎年、各地区で若年男女の転入促進又は転出抑制が必要 ⇒外国人技能実習生を想定
- ・目標人口の達成には毎年、各地区でファミリー世帯の転入促進又は転出抑制が必要 ⇒ファミリー世帯（Jターン）を想定
- ・安芸高田市への移住・促進を図る上で、通勤者を含む多様な関係人口を創出し、地域を知ってもらうことが重要
- ・安芸高田市はUターン割合が低いため、学生が卒業して市外に出る前に、地域への愛着を高めて頂くことが重要 等

目指す将来像の実現
子どもたちの未来の生活・居場所を守る



目指す人口（2045年：18,000人）



政策シナリオを踏まえて、今後、以下の数値目標を設定
●●人/年の転入促進
●●人/年の転出抑制 ●●%/年の合計特殊出生率の向上

	基本目標Ⅰ	基本目標Ⅱ	基本目標Ⅲ	基本目標Ⅳ
テーマ	安心して住み続けられる環境をつくる事業	人をつなげる事業	ここにしかない歴史・文化を未来につなげる事業	循環の「環」をつなげる事業
人口減少対策に向けた政策の対象（たたき台）	ファミリー世帯 外国人技能実習生 コミュニティ	学校（児童・学生） 地元企業	観光客 個人版関係人口 企業版関係人口	移住者
検討方針	人口ビジョン等の結果を踏まえて、目標人口からの逆算思考で真に必要な施策・事業を検討 行政主導だけでなく、公民連携による重点プロジェクトを検討			
横断施策	公民連携の強化、デジタルの活用、プロモーションの強化			
目標人口への寄与	転出抑制・転入促進 合計特殊出生率の向上	転出抑制・転入促進 （将来のUターン候補）	関係人口・転入促進 （地域をまずは知る）	転入促進 （都会では得難い魅力）
財政への影響	市民税等増加	市民税等増加	ふるさと納税等増加	市民税等増加

第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像

【第2次総合戦略策定の目的】

今後も、安芸高田らしさを維持しながら、持続的に発展していける姿を示す

○SDGsの理念を通じて、豊かで活力のある未来をつくる

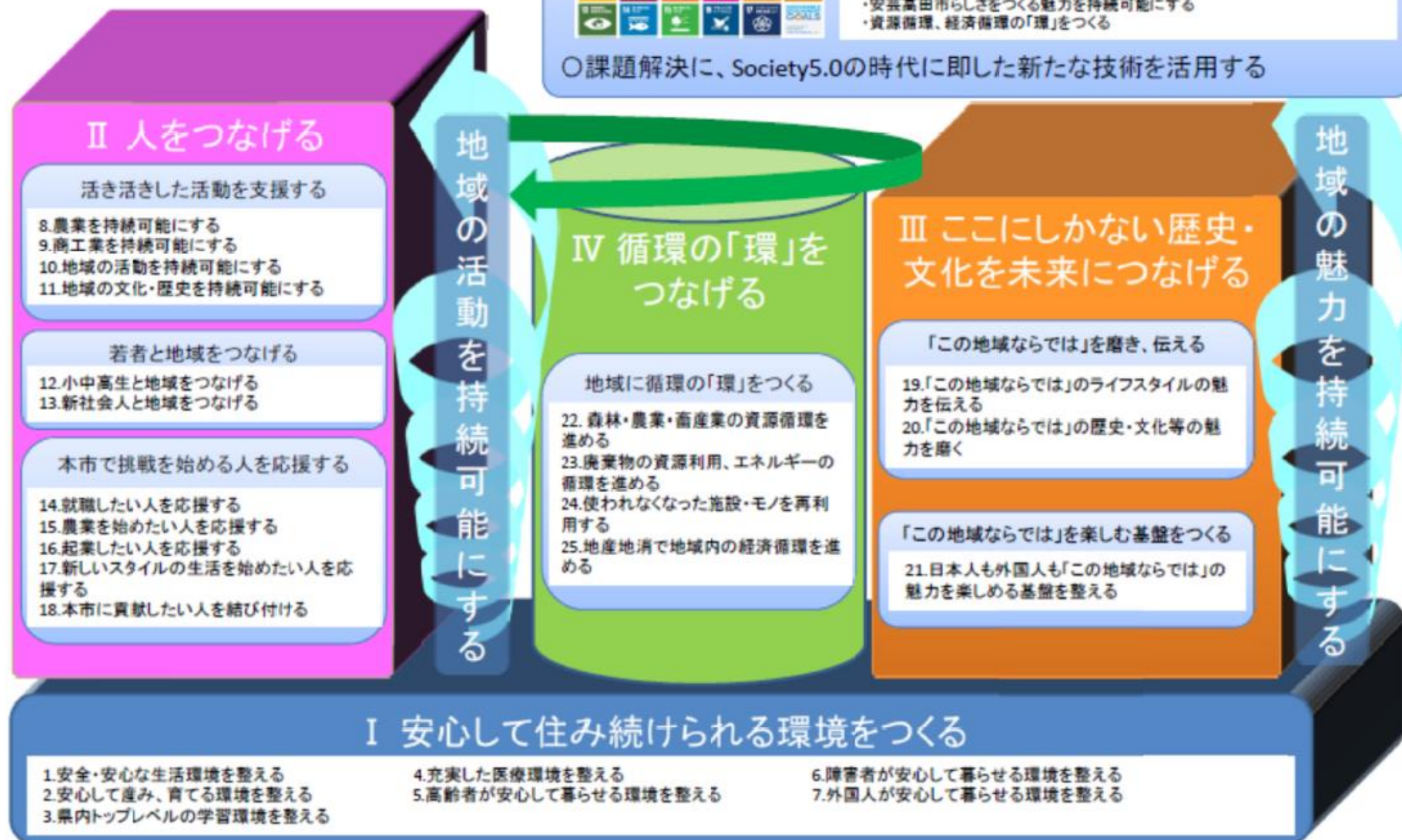


【SDGsの理念】

誰もが置き去りにされることのない、持続可能で多様性のある社会を実現する

- ・誰もが安心して住み続けられる環境をつくる
- ・地域の活動・営みを持続可能にする
- ・安芸高田市らしさをつくる魅力を持続可能にする
- ・資源循環、経済循環の「環」をつくる

○課題解決に、Society5.0の時代に即した新たな技術を活用する



広島県立吉田高等学校が提案する
地域の魅力化事業

ド田舎高級化

16歳が考えたら、こんなアイデア生まれました。

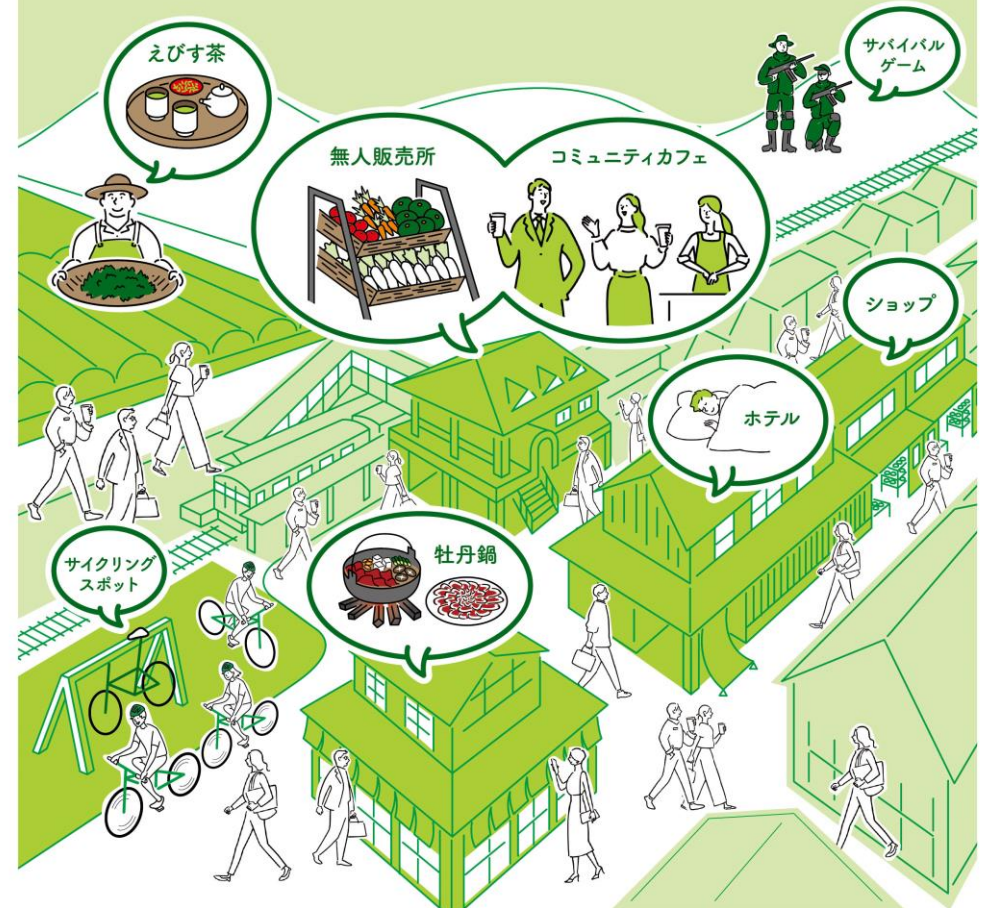
「産業社会と人間」という授業の中で、「ド田舎高級化」をコンセプトとした安芸高田市の魅力化事業を考えました。このコンセプトには、安芸高田市の希少性を活かして、多様な価値を市内外に提供していきたいという想いを込めています。その中でも、「郡山城まるごとホテル」は安芸高田市の未来を変える、大人も子どももワクワクする取り組みとして、実際に郡山城に足を運び、リアリティのある構想を練りました。大人も子どももチャレンジし、多様性が生まれ、面白いまちになっていくことを願っています。



広島県立向原高等学校が提案する 地域の魅力化事業

向原復興

総合的な探究の時間を利用して、「向原復興」をコンセプトとした向原地域の魅力化事業を考えました。このコンセプトには、えびす茶を始めとした地域ならではの資源を活用して、向原駅を中心に新たなにぎわいを生み出し、若者の移住・定住が促進されることを目指しています。これにより、向原高校が地域に残り続けて欲しい、という想いも込めています。



- ・人口規模700人の山梨県小菅村では、高付加価値型の分散型ホテル事業を推進しています。
- ・民間運営で、売上規模は約7千万円、従業員10人、3年程度で黒字化までしており、地域に産業と雇用を生み出しています。
- ・ランニングでは役場からの補助は受けておらず、稼働率は40%を超え、今では宿泊者の半数以上が外国人です。

**「700人の村が一つのホテルに。」をコンセプトに、
地域全体を一つの宿に見立てる分散型ホテル「NIPPONIA小菅 源流の村」を
2019年8月17日にオープンしました。**

【「NIPPONIA小菅 源流の村」の特長】

- ✓ 地域内に点在する空家をリノベーションして宿泊施設にすることで、地域内の食堂・商店・野外体験施設・温浴施設等を積極的に利用してもらい、地域全体で観光客をもてなします。
- ✓ 築150年超の地元名士の邸宅「細川邸」を改修し、客室4室及び22席のレストランとして開業。
- ✓ 運営するスタッフは全員が村人であり、食材もほとんどが小菅村の農家が栽培したものを用います。また、ホテルの中だけでなく、スタッフとともに周辺の自然を散策し、自転車で村全体を巡り、村人と触れ合うことで、村全体を感じられる体験を提供。

